

〈第二部〉演奏会

『いま蘇る南葵楽堂
伝説の音楽会』

【出演】

チェロ／渡部玄一（読売日本交響楽団）

ピアノ／江上 菜々子

【プログラム】

ホルマン セレナーデ

ブルック コルニドライ

サン＝サーンス チェロ協奏曲第1番

サン＝サーンス 白鳥



▲南葵楽堂(1918年落成)

〈第二部〉パネルディスカッション

【パネリスト】

徳川 宜子／林 淑姫／泉 健／曾野 洋

【コーディネーター（兼パネリスト）】

美山 良夫

シンポジウム

南葵音楽文庫

～楽しみと学び～

平成30年 9月 15日(土) <参加無料>

【開場】13:00【開演】13:30【終演】15:45(予定)

場所

和歌山県立図書館2階 メディア・アート・ホール

(和歌山市西高松一丁目7番38号)



▲徳川頼貞(1892-1954年)とジョゼフ・ホルマン(1852-1926年)



■申込方法

事前予約制(全席自由)

*事前申込が必要です。申込方法は裏面をご覧ください。(往復はがきによるお申込に限り)

■募集開始 平成30年7月11日(水)

■問合せ・申込先

〒640-8585 和歌山市小松原通1-1

和歌山県庁 文化学術課

TEL:073-441-2052

FAX:073-436-7767

E-mail:e0221001@pref.wakayama.lg.jp

ホームページ:

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/022100/nanki/>

■主催 和歌山県

*駐車場の数に限りがあります。公共交通機関等をご利用のうえお越しください。

*手話通訳あり(別途申込不要) *未就学児のご入場はご遠慮ください。



平成30年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業

シンポジウム 南葵音楽文庫～楽しみと学び～

出演者プロフィール

■演奏会

世界の誰かがとめるチェロの名手ジョゼフ・ホルマンが、徳川頼貞の招きで来日、頼貞が設けた南葵楽堂に登場しました。1923(大正12)年4月28日の夜に開催された「ホルマン歓迎演奏会」のプログラムを飾った作品から、名作や彼の自作を選び、伝説的な音楽会を再現します。



渡部 玄一 (チェロ)

東京藝術大学附属高校を経て、桐朋学園大学及び同校研究科卒。ジュリアード音楽院卒。インディアナ大学でもさらに研さんを積み、帰国。以来、ソロ・室内楽・オーケストラ奏者として幅広く活躍。2003年文化庁海外派遣員としてドイツにて研修。2008年東京アンサンブルギルド設立。2014年に自身がホストを務める音楽番組「音の教養」が放送スタートし、同番組コンサートも開催。CD「It's Peaceful Here ここは良きところ」リリース。著作「ワタナベ家のちょっと過剰な人びと」など。現在、読売日本交響楽団団員。



江上 菜々子 (ピアノ)

桐朋女子高等学校音楽科を卒業後、渡独。ベルリン芸術大学を最優秀の成績で卒業後、「ハンス・アイスラー」ベルリン音楽大学大学院にて研鑽を積み、1998年ドイツ国家演奏家試験に最優秀の成績で合格、修了。イタリア・セニガリア国際ピアノコンクール、カルタニゼッタ国際室内楽コンクール、日本室内楽コンクールに入賞。現在は、ベルリンフィルハーモニー管弦楽団や読売日本交響楽団首席奏者との室内楽共演のほか、国内外のオーケストラの客員奏者や、新国立劇場コレパティウォール、また草津音楽祭講習会ピアニスト、通訳なども務める。

■パネルディスカッション

貴重な音楽資料とそれに関わる物語、徳川頼貞の真の思いと願い——まだ整理は続けられています、いま見えてきた文庫のあらたな魅力、紀州徳川家の心を、現在進行形で紹介します。



<パネリスト> 徳川 宜子

紀州徳川家第19代当主。建築家。東洋英和女学院を卒業、大成建設を経て石橋徳川建築設計所設立。



<パネリスト> 林 淑姫

旧日本近代音楽館事務局長・主任司書。早稲田大学文学部卒。明治学院大学大学院客員教授、国立国会図書館「近代日本刊行楽譜総合目録 洋楽編」データベース編集委員等を務める。主な著書等『近代日本芸能年表』(共著、ゆまに書房)、秋山邦晴「昭和の作曲家たち」(監修・解説、みすず書房)。



<パネリスト> 泉 健

和歌山大学名誉教授。東京芸術大学卒業、東京芸術大学大学院修了。音楽学専攻。著書に『音階と日本人』(柳原書店)、共著に『音の今昔』(弘文堂)、『西洋音楽の歴史』(東京書籍)。最近では1900年前後のベルリンにおける日独の相互音楽受容を研究(参照URL和歌山大学学術リポジトリ)。現在和歌山大学、京都女子大学、和歌山県立医科大学、近畿大学で講師。



<パネリスト> 曾野 洋

四天王寺大学教授、慶應義塾大学客員研究員。和歌山県生まれ。慶應義塾大学法学部卒業後、神戸大学大学院修士課程、名古屋大学大学院博士課程、慶應義塾大学SFC研究所上席所員、慶應義塾福澤研究センター客員所員、四天王寺大学教育学部長、同大学IR戦略統合センター長などを経て、現職。2012年より毎日新聞にて、「範は紀州史にあり」を連載中。



<コーディネーター 兼 パネリスト> 美山 良夫

慶應義塾大学名誉教授。慶應義塾大学、パリ大学大学院で音楽学・西洋音楽史を学ぶ。慶應義塾大学文学部教授、同大アート・センター所長、(公財)読売日本交響楽団理事などを歴任。主な著書等『フォーレ「ピアノ音楽全集」全5巻(校訂・解説、春秋社)』、『音楽史の名曲』(共著、春秋社)。2006年より南葵音楽文庫貴重資料デジタル化を推進。

数奇な運命を生き抜いた世界屈指の音楽コレクション

【音楽の殿様—徳川頼貞のコレクション】



南葵音楽文庫とは、紀州徳川家第16代当主徳川頼貞(1892-1954)が、主に大正時代に私財を投じて集めた、西洋音楽書や楽譜などのコレクションを指します。イギリスの音楽研究者W.H.カミングス(1831-1915)の有名な蔵書(カミングス・コレクション)が文庫の中核を成し、最初期の活版印刷書籍やベートーヴェン、バルトークの直筆譜など数々の貴重資料が含まれます。

頼貞が東京・麻布飯倉に建てた我が国初の音楽専用ホール「南葵楽堂」に併設された音楽図書館に所蔵されていたコレクションは、関東大震災やその後の財務危機の影響で頼貞の元を離れましたが、様々な曲折を経ながらも大きな散逸を免れて継承され、現在は公益財団法人読売日本交響楽団が所有しています。

【和歌山の地に辿り着いた紀州徳川の魂】

頼貞の没後に追加されたものも含めて総資料数約20,000点にも及ぶこの素晴らしいコレクションの全てが、2016年、読売日本交響楽団から和歌山県に寄託されました。

寄託契約の内容は、読売日本交響楽団が所有している南葵音楽文庫の保管を和歌山県に移し、和歌山県の管理下で文庫の活用を図るというもので、2017年4月から和歌山県立図書館において資料の整理と調査研究が始まりました。同年12月には、和歌山県立博物館で特に貴重な資料約100点が特別展示されるとともに、和歌山県立図書館で整理が済んだ資料の一部が一般公開されました。

紀州徳川家が紀州藩主となってちょうど400年の節目を迎える2019年の冬には、ほぼ全ての南葵音楽文庫資料が和歌山県立図書館で閲覧できるようになる予定です。



【お申込方法】※往復はがきによるお申込に限りです。

往復はがきに、下記の内容をご記入の上、以下の宛先までご郵送ください。

<宛先> 〒640-8585 和歌山市小松原通1-1

和歌山県庁 文化学術課 南葵音楽文庫担当

<お問合せ先>

和歌山県庁 文化学術課 TEL: 073-441-2052 / FAX: 073-436-7767

E-mail: e0221001@pref.wakayama.lg.jp

<申込期限>平成30年8月22日(水) 必着

(返信の宛名)	(返信の文面)
<input type="checkbox"/> 往復 〒640-8585 和歌山県庁文化学術課 南葵音楽文庫担当宛	※住所記載不要 この面は記入不要です。 後日、抽選結果をお知らせします。

(返信の宛名)	(返信の文面)
<input type="checkbox"/> 返信 〒(申込者様の郵便番号) 申込者様の氏名様	申込者様の住所 1.希望者の氏名(フリガナ)(1枚で2名まで申込みます) ① (氏名) ② (氏名) 2.代表者の電話番号 3.シンポジウムの日時(確認用) 日30年9月15日(土) 13時30分開演 4.特記事項があればご記入ください。